

科目名 (英)	東洋医学臨床論Ⅰ (Clinical Oriental MedicineⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分 曜日・時限	後期
【授業の学習内容】 ・東洋医学臨床論では臨床上で扱う一般的疾患・症候に対して幅広い対応が行えるよう現代医学的な考え方に基づく診察と施術について学習するとともに東洋医学的な観点からの診察と施術法についても学習する。 ・特に東洋医学臨床論Ⅰでは運動器疾患、脳神経疾患、末梢神経疾患等について学習する。 笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】 ①現代医学的また東洋医学的考え方に基づく診察を行うことができる。②両医学に基づき適・不適の判断理由を説明することができる。③両医学の観点より適切な施術方法について説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	鍼灸の治療原理や治療原則について理解し、説明することができる。
2回目	現代医学的な観点から鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
3回目	弁証治療原則について理解し、説明することができる。
4回目	現代医学的な観点から、運動麻痺、末梢神経麻痺について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
5回目	選穴法の種類と選穴法について理解し、説明することができる。
6回目	現代医学的な観点から、頸肩腕痛、肩こりについて鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
7回目	配穴法の種類と配穴法について理解し、説明することができる。
8回目	現代医学的な観点から、頸椎症、椎間板ヘルニア、外傷性頸部症候群について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
9回目	五輸穴、五要穴の主治作用を理解し、説明することができる。
10回目	現代医学的な観点から、関節痛(肩関節、肘関節、手関節、指関節)、狭窄性腱鞘炎、胸郭出口症候群、について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
11回目	下合穴、八脈交会穴、八会穴、四総穴の主治作用を理解し、説明することができる。
12回目	現代医学的な観点から、肩関節周囲炎、野球肩、テニス肘、野球肘について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
13回目	痺証の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。
14回目	現代医学的な観点から、腰痛・腰下肢痛、変形性腰痛症、腰椎椎間板ヘルニアについて鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
15回目	肩こりの病証と治則・治法について理解し、説明することができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、解剖学、経穴学、臨床医学総論、臨床医学各論の知識が必要。 (目標②)授業後は分らなかった箇所をチェックし、自分で調べたり教員に確認するなどの対処をすること。 (目標③)前回までの内容をチェックして授業を受けること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社、新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社 鍼灸療法技術ガイドⅡ 文光堂、臨床医学総論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社株式会社、臨床医学各論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社株式会社 参考書:鍼灸療法技術ガイドⅠ 文光堂、ずっと使える!鍼灸臨床BOOK 株式会社滋慶出版/つちや書店	

科目名 (英)	東洋医学臨床論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
	(Clinical Oriental MedicineⅠ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分	後期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	
【授業の学習内容】 ・東洋医学臨床論では臨床上で扱う一般的疾患・症候に対して幅広い対応が行えるよう現代医学的な考え方に基づく診察と施術について学習するとともに東洋医学的な観点からの診察と施術法についても学習する。 ・特に東洋医学臨床論Ⅰでは運動器疾患、脳神経疾患、末梢神経疾患等について学習する。 笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】 ①現代医学的また東洋医学的考え方に基づく診察を行うことができる。②両医学に基づき適・不適の判断理由を説明することができる。③両医学の観点より適切な施術方法について説明できる。							

授業計画・内容	
16回目	現代医学的な観点から、椎間関節性腰痛、腰椎分離・すべり症、腰部脊柱管狭窄症、について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
17回目	腰痛の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。
18回目	現代医学的な観点から、関節痛(股関節、膝関節、足関節)、変形性股関節症、変形性膝関節症、下肢の絞扼性神経障害について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
19回目	痙証の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。
20回目	現代医学的な観点から、野球肩、テニス肘、野球肘、ジャンパー膝、内側・外側側副靱帯損傷、前十字靱帯損傷について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
21回目	頭痛の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。
22回目	現代医学的な観点から、半月板損傷、オスグッド病、シンスプリント、足関節捻挫、足底腱膜炎について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
23回目	顔面神経痛の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。
24回目	現代医学的な観点から、頭痛、顔面痛について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
25回目	顔面神経麻痺の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。
26回目	現代医学的な観点から、脳卒中後遺症、三叉神経痛、視床痛について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
27回目	歯痛の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。
28回目	現代医学的な観点から、顔面神経麻痺、脱毛症について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
29回目	各病証における治則・治法について理解し、説明することができる。
30回目	現代医学的な観点から、その他疾患について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、解剖学、経穴学、臨床医学総論、臨床医学各論の知識が必要。 (目標②)授業後は分らなかった箇所をチェックし、自分で調べたり教員に確認するなどの対処をすること。 (目標③)前回までの内容をチェックして授業を受けること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 文光堂、臨床医学総論、臨床医学各論、ずっと使える！鍼灸臨床BOOK	